

耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科

私(たち)の考える耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科というと、「正直、ミミとハナとノドを見ているだけでつまらなそう」とか、実際に学生時代の授業でもコルチ器やラセン神経節、内耳有毛細胞・・・とか、耳の中や鼻の中は何だか細かくて良くわからないし、頭頸部がんの手術は長時間で大変そう、耳鼻咽喉科には興味がないなあ、好きじゃないなあと思っている人も多いと思います。私は耳鼻咽喉科を“病気を治す科”というよりも、ミミやハナ、ノド、クビという窓から、“患者さん全体を見る科”であると考えています。患者さん全体を見るとは如何なることなのでしょう？母の子宮からこの世に誕生した人間が、成長と共に立ち上がって、2足で歩行する。やがて、ことばを発し、仲間と様々にコミュニケーションを行いながら、創造的な行動を行うようになる。その中では、仲間と会話したり、共に食事をしたり、手を取り合ったりなど、まさに他の動物とは明らかに異なる行動を行う姿があります。もしくは、残念ながら生まれながらにして、もしくは成長の途中、病気や事故によってなどにより立ち上がることができない状態となっても、表情や仕草からコミュニケーションを図ろうとするという姿もヒトならではのものと思います。ヒトの立ち上がらんとする姿、ことば、豊かな表情は結局のところ、耳鼻咽喉科の守備範疇とする平衡・姿勢保持、声やことば(構音)、聴覚、嚥下、顔面表情運動、嗅覚・味覚に関するものであります。それらは、成長と共に変化し、身体の不調や病気の状態によっても様々に修飾されます。例えば、声や表情について考えてみると、朝の「おはよう」という挨拶だけでも、相手の不調や心情、“いつもと何か違うな”ということが直感として分かります。それは、声帯や声帯運動、顔面表情筋のスコア、採血結果や画像診断では必ずしも評価できません。まさにヒト全体の姿を生き生きと捉えることによって、患者を理解しようという心情がなければ理解できません。私(たち)はそれが耳鼻咽喉科の醍醐味であると考えています。従って、患者さんは赤ちゃんから超高齢者まで、脳性麻痺や神経難病の方々、身体の様々な病気の治療後の不調、精神疾患であったりもします。そして、勿論、病気や障害が治ればそれで良いですが、残存もしくは遷延したとしても、それらを乗り越えることが出来るように患者さんと共に歩むということが大事であると考えています。また、時には如何に死も迎えるのかを考えることが必要となる場合もあります。そうは偉そうに言っても、いつもそのような理想通りはいかず、失敗・反省の多い毎日ですが、そう努力したいと思いつつ日々診療にあたっております。是非、遊びに来てください。

研修期間：1ヶ月を単位とします

1週間の研修スケジュール：

午前	午後
・月曜日：手術/病棟処置	手術
・火曜日：病棟処置/外来	検査およびリハビリテーション(嚥下/音声/構音/平衡)

- ・水曜日：病棟処置/外来 小児難聴外来
- ・木曜日：手術/めまい外来 手術、リハビリテーション(嚥下/音声/構音障害)
- ・金曜日：外来/病棟処置 外来/病棟処置
- ・土曜日：休み

☆他に、こういった研修がしたいなどの希望があれば可能な限り応じます。